

眞駒内鑛山調査報告

Report on the Limonite deposits of Makomanai mine, Ishikari Province.

土 居 繁 雄*
(Shigeo Doi)

Abstract

Makomanai mine is located about 15 km. south west of City Sapporo. Geology of this mining area is formed of Tertiary and Pleistocene deposits. Limonite ore-deposits lies unconformably on the propylite, Neogene Tertiary in age. The working ore-body is small in scale, consequently its remaining quantity a little. Except for this deposit, no remarkable resource is known at present in this mining area, and its are poor, owing to aboundng in propylite fragments. And may be little in economic value.

目 次

ま え が き	2. 地質の概要	3. 鉍 床
1. 位置および交通	4. 沿革および現況	あ と が き

ま え が き

まこまない
眞駒内鉍山の鉍業権者である三谷栄次郎氏は、採掘中の褐鉄鉍床の鉍量がなくなつたため、同鉍区内の探鉍もかねて、この鉍床調査を、北海道地下資源調査所に依頼してきた。この要望によつて筆者は、昭和27年11月、鉍床の規模、残存鉍量の調査および附近の探鉍を目的として、約4日間の現地調査をおこなつた。その結果、採掘中の鉍体の大きさは、いままで鉍山側でみていた規模とほとんど同じで、残存鉍量もきわめて少ないこと、鉍区内のほかの褐鉄鉍床といわれていたものも、稼行の対象として満足するようなものでないことがわかつたので、いちおうその概要を紹介する。

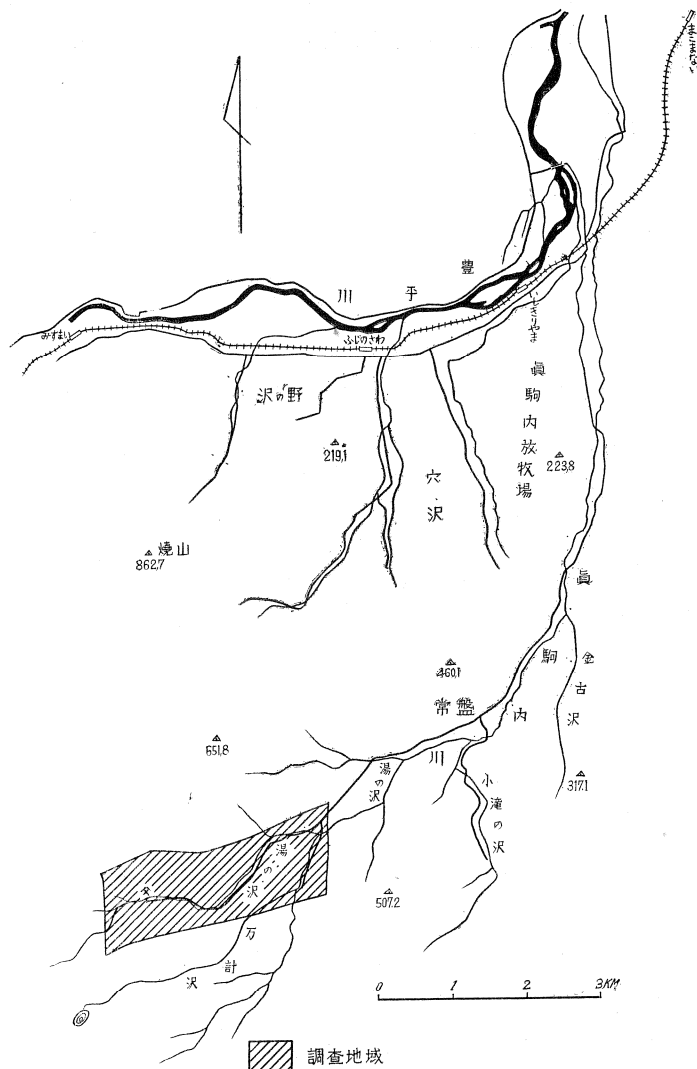
なお、調査に際しては、現地においていろいろとご配慮をたまわつた同鉍山の職員各位に厚くお禮を申し上げる。

1. 位置および交通

褐鉄鉍床は、石狩支庁管内の札幌郡豊平町字湯の沢の札幌管林局定山溪管林署管轄国有林(旧

* 地質第1課

第1図 調査地域位置図



真駒内御料地) 内の湯の沢上流附近に賦存している。現地には定山溪鉄道の石切山駅で下車して、駅前から常盤ゆきのバスにのり(この間約8 km)、終点からさらに歩いて約2 kmの湯の沢部落から、真駒内川の一支流である湯の沢にそつてゆくこと約4 kmで達する(この間は、トラックを通ずる)。

2. 地質の概要

この附近を構成している地質は、つぎに示したようなものである。

第四紀 岩屑堆積物
 ~~~~~ 不整合 ~~~~~  
 プロピライト  
 新第三紀 砂岩・頁岩・凝灰岩五層

### 1) 砂岩・頁岩・凝灰岩

**五層**：この附近の基盤岩層で、湯の沢と真駒内川との合流点附近から、約1.5 km

のあいだの河岸や河床に露出している。下部は灰黒色の頁岩層を主とするが、上部になるにしたがつて、灰緑色の凝灰質砂岩が多くなり、ついに緑色の凝灰岩にうつりかわる。この地層は、真駒内川と湯の沢との合流点附近では  $N 40^{\circ} E \cdot 20^{\circ} \sim 24^{\circ} NW$ 、合流点より湯の沢にそつて約1 km 遡つた附近では  $N 10^{\circ} E \cdot 12^{\circ} \sim 20^{\circ} NW$  の走向・傾斜をしめしている。

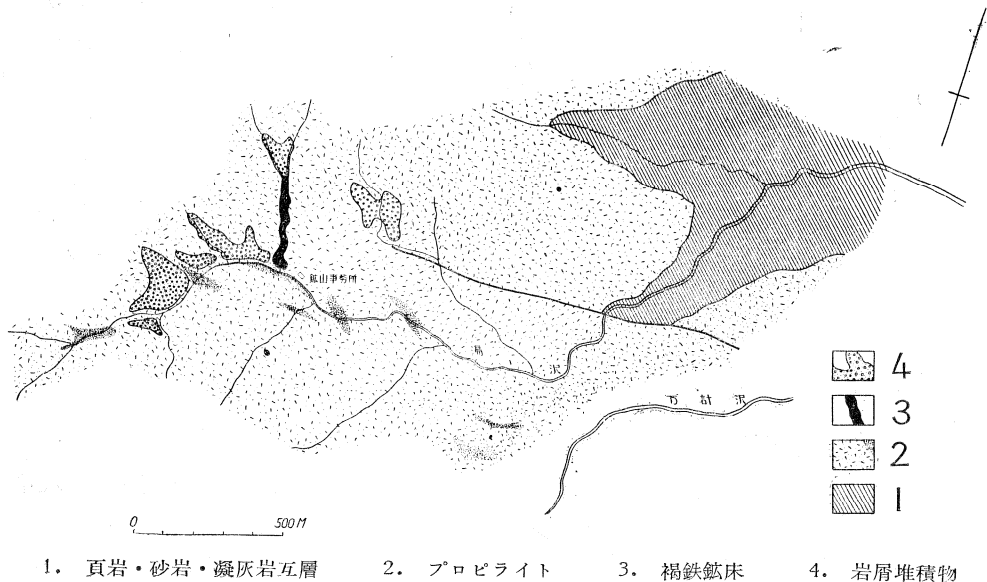
2) **プロピライト**：まえにのべた砂岩・頁岩・凝灰岩の五層の上のり、湯の沢の上流附近に発達している。

この岩石は、暗緑色の緻密なもので、ところによつては黄鉄鉱化作用をいちじるしくうけている。なお、この鉱化作用の方向は、この附近における構造線の方向とほぼにている。

褐鉄鉱床は、このプロピライトの上に賦存している。

3) **岩屑堆積物**: 岩屑堆積物は、湯の沢の河岸およびその支流の沢などに分布していて、おもにプロピライトの角礫からなり、そのあいだを褐鉄鉍化した粗粒な砂でうめている。この中に褐鉄鉍のうすい層をはさんでいることが多い。

第 2 図 真駒内鉍山附近の地質概念図



### 3. 鑛 床

褐鉄鉍床は、まえにのべたように、プロピライトの上に沈澱したもので、湯の沢やその支流の小沢の河岸または河床に、露出している。

採掘中の鉍床は第3図に示してあるように、湯の沢の一支流であるU字形の小沢にそつて沈澱したもので、鉍体の規模は、すでに採掘ずみのところが多く、残つている鉍石の状態や、簡易測量をおこなつた結果からみて、鉍床の厚さは2 m 内外、平均巾 15 m、延長約 150 m であることがわかり、鉍床の両側が断面図に示したように基盤のプロピライトが露出している。鉍石は、鉍床の下部では凝灰岩のようにみえる、いちじるしく鉍化作用をうけたプロピライトの角礫を多くふくみ、品位が低いが、上部になるにしたがつて、褐鉄鉍化した木の葉・幹・枝などをふくむ高品位のものになる。また、鉍床の北部の2股から上流では、褐鉄鉍床はしだいに角礫まじりの、品位が低いものにうつりかわり、ついにはほとんどプロピライトの岩屑堆積物になる。

このようなことから、採掘中の鉍体については、残存鉍量はきわめて少く、こんごに鉍量の増加を期待することができない。

さらに、この付近にある褐鉄鉍床といわれていたものは、地質のところでのべた岩屑堆積物が多く、ところによつては褐鉄鉍化しているところや、褐鉄鉍の薄層をはさんでいるが、鉄鉍石として、採掘する価値のないものばかりである。

#### 4. 沿革および現況

この褐鉄鉱床は、大正7年頃に採掘して、豊平町で製錬したこともあるが、1時廃業していたものを、昭和17年に水谷某が鉱業権を設定し、そのご昭和18年に、いまの鉱業権者である三谷栄次郎がこれをゆづりうけ、昭和19年より操業をはじめた。

採掘は露天掘りをおこない、鉱石は手選してトラックで定山溪鉄道の石切山駅に搬出している。なお昭和19年から昭和26年までの生産量はつぎのとおりである。

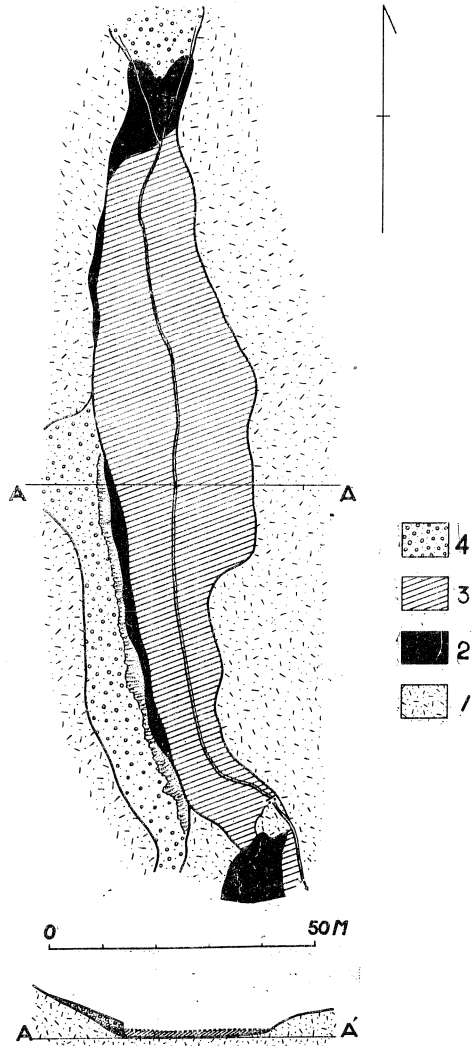
|          | 昭19年  | 和20年  | 昭23年 | 昭24年 | 昭25年 | 昭26年  |
|----------|-------|-------|------|------|------|-------|
| 精鉱 (ton) | 3,000 | 3,000 | 800  | 800  | 800  | 1,500 |
| 品位 (%)   | 52    | 52    | 52   | 52   | 52   | 54    |

(北海道鉱業会編：北海道の鉱業による)

#### あ と が き

石狩国札幌郡豊平町の湯の沢上流附近にある褐鉄鉱床の調査結果を報告した。この結果をつぎに要約するならば、(1)採掘中の鉱床の規模は大きなものではなく、こんごに鉱量の増加は期待できない。(2)鉱区内の褐鉄鉱床といわれているものは、褐鉄鉱化した岩屑堆積物であつて、鉄鉱石としては品位が低く、採掘する価値のないものである。

第3図 鉱床実測図



- 1. プロピライト
- 2. 褐鉄鉱
- 3. 褐鉄鉱採掘跡
- 4. 岩屑堆積物